

事業概要表(草の根パートナー型)

| I. 提案事業の概要 | |
|---------------------|---|
| 1. 対象国名 | ケニア共和国 |
| 2. 事業名 | 民族対立緩和のためのケニア国立博物館における ICT 異文化理解教育ファシリテータ育成事業 |
| 3. 事業の背景と必要性 | <p>ケニアは国内での民族対立が激しい。同国は、民族融和のため行政改革を行う一方、市民が非暴力の紛争解決手法を学ぶ重要性を謳う。</p> <p>ケニア国立博物館 (NMK) は、多文化と自然科学を尊重する児童教育を展開している。提案団体は、UNESCO を介し、NMK にて ICT を用いた異文化理解教育を試験実施した。成果 (現地紙掲載、活動継続要請など) が認められる一方、NMK のノウハウ不足・人材不足等、課題が浮き彫りとなった。</p> <p>NMK は、特に民族対立が激しいナイロビ及びキスムでの平和教育充実の必要性を認識しており、近隣学校と協力した国内の部族間の異文化理解教育を求めている。</p> |
| 4. プロジェクト目標 | ケニア国立博物館 (NMK) ナイロビ館およびキスム館において、ICT 異文化理解教育を円滑に運営する研修を受けたファシリテータを育成する仕組が構築される。 |
| 5. 対象地域 | ナイロビ及びキスム |
| 6. 受益者層 (ターゲットグループ) | NMK 職員、教育従事者またはそれを志すボランティア (社会人・大学生・高校生)、キベラ小学校、ジョセフ・カンゲス小学校およびザビリアン小学校等の 8~15 歳の児童とその保護者 |
| 7. 生み出すべきアウトプット及び活動 | <p><アウトプット></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. NMK の異文化理解教育を実施する組織体制が構築される 2. NMK の ICT 異文化理解教育ファシリテータが養成される 3. ICT 異文化理解教育の定点モニタリングが開催される 4. ケニア人講師によって ICT 異文化理解教育ファシリテータ研修が実施される <p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1. NMK と事業計画を作成、1-2. NMK の当事業担当者を選定、1-3. NMK、大学、小中学校等の組織から研修者募集体制の構築 2-1. 研修マニュアルの作成、2-2. エントリーレベル研修を実施、2-3. リーダーレベル研修を実施、2-4. 講師レベル研修を実施 3-1. ナイロビにて定点モニタリングの参加児童を募集、3-2. NMK がナイロビ館にて児童を交えた定点モニタリングを実施、3-3. キスムにて定点モニタリングの参加児童を募集、3-4. NMK がキスム館にて定点モニタリングを実施 4-1. ケニア人講師が研修マニュアルを改訂、4-2. ケニア人講師が研修を実施、4-3. ケニア人講師が事業実施運営マニュアルを作成、4-4. 研修効果のモニタリング (実地およびオンライン) |
| 8. 実施期間 | 2018 年 3 月~2022 年 12 月 (4 年 9 カ月) |
| 9. 事業費概算額 | 40,319 千円 |
| 10. 事業の実施体制 | <日本側>特定非営利活動法人パンゲア、<ケニア側>ケニア国立博物館 (NMK)、UNESCO Kenya、ミレニアムプロミスジャパン |
| II. 応募団体の概要 | |
| 1. 団体名 | 特定非営利活動法人パンゲア (TICAD 市民ネットワーク加盟) |
| 2. 活動内容 | ケニア・日本等で児童のための ICT 異文化理解教育事業。 |